

平成29年4月27日

## EB装置（緊急列車停止装置）のスイッチが「切」の状態での運転した事象について

本日、平成29年4月27日の札幌6時53分発函館行き特急スーパー北斗4号において、EB装置（※）のスイッチが「切」の状態での運転した事象が発生しました。スーパー北斗4号が函館駅到着後、折返しの特急スーパー北斗11号に乗務する運転士が、EB装置のスイッチが「切」となっていることに気がつき、当事象が判明しました。

1. 発生日時 平成29年4月27日 午前6時19分頃～午前10時38分頃
2. 発生区間 手稲～札幌駅間（スーパー北斗4号となる回送列車）  
札幌～函館駅間（スーパー北斗4号）
3. 車 両 261系車両7両（定員:354名、乗車:約280名）
4. 原 因 運転士が発車前の車両点検の際にEB装置のスイッチが「切」となっていることに気がつかなかったためです。  
スイッチが「切」となっていた原因については現在調査中です。

### ※EB装置（緊急列車停止装置）について

EB装置とは、運転士が運転機器操作を60秒間行わなかった場合にブザーが鳴動し、さらに5秒間何もしなければ自動的に非常ブレーキが作動する装置です。

なお、停止信号やカーブの速度制限、分岐器の速度制限は、EB装置が機能しない状態でも、ATS-DN装置により制御されています。

また、運転士が気を失うなどして、ノッチハンドル（自動車というアクセル）から手が離れると、自動的に「切」位置となり、列車の速度が低下するなど、車掌が気づき、列車を停止させることになると考えられます。

考えられるリスクとしては、運転士が気を失った状態で、列車速度が低下する前に踏切に差し掛かり、しゃ断している踏切に自動車が進入した場合などに、ブレーキがかけられず、衝突することが想定されます。